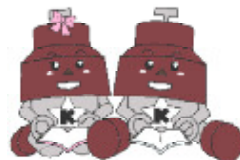




156号 2017.3

川口市立図書館

図書館だより



パソコン用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/>

携帯電話用ホームページ URL <http://www.kawaguchi-lib.jp/opw1/IMD/IMDMAIN.CSP>



QRコード ➔

わたしの今年の一冊 2016

昨年お読みになった本の中で、印象に残った一冊をあげていただく「わたしの今年の一冊」は、今回で21回目となりました。たくさんのご応募をいただきましたが、紙面の関係で23点、掲載させていただきます。

「すべての見えない光」

アンソニー・ドーア／著 藤井光／訳

新潮社 2016年刊 933.7/ト

今まで読んだ本の中で、1番ともいえる本です。第二次世界大戦下の少年兵と盲目の少女の物語で、悲しい場面もありますが描写が美しく、読み終えるのが惜しくなる本でした。物語の展開も驚くような運びで、パズルのようにばらばらだったピースがつながります。五感を感じさせる文は、この作者独特のものだと思います。

(50代 女性)

「×切本」 左右社編集部／編

左右社 2016年刊 914.68/シ

夏目漱石から森博嗣まで、近代から現在に至る様々な作家達の著作・日記・手紙などの中から「×切」について述べた部分を集成した本。作家達がいかに×切に翻弄され、苦悩させられ、しかし時には背中を押されたかが伺える。×切が過ぎないと書き出さない人、×切が近づくとも体調が悪くなる人、自分で×切を宣言しておいて間に合わないと言き言をいう人…。どの作家が繰り出す「×切論」も、その作品たちに負けず、個性的で面白い。(30代 女性)

「おいしい雑草」 平谷けいこ、赤間博斗／著

摘み菜を伝える会／監修

山と溪谷社 2016年刊

657.8/ヒ

表紙の「すみれサラダ」の写真に惹かれました。日本料理の調理師が料理を担当し、見開きの左が植物、右にレシピと、植物図鑑であり、料理本でもあります。まえがきに「雑草を食べる知識はいざという時、心強い」とありますが、まさに楽しみながら「備え」ができる本です。(50代 不明)

「総選挙ホテル」 桂望実／著

KADOKAWA 2016年刊 913.6/カ

業績打開のために「従業員総選挙」を行い リストと人材シャッフルを行ったホテルのお話。天職とは？適職とは？仕事について考えさせられた1冊。そして、読後、元気がもたらえた1冊です。

(50代 女性)

「ねにもつタイプ」 岸本佐知子／著

筑摩書房 2007年刊 914.6/キ

翻訳家である岸本さんが綴ったエッセイ集。思考錯乱(?)の独特な世界観にはまり込んでしまって、読んでいて電車を乗り過ごすなどしました。そうとう面白いです。じわじわきます。(20代 女性)

「みんな彗星を見ていた」 星野博美／著

文藝春秋 2015年刊 198.2/ホ

今年はこの本からスタートしました。楽器のリュートを学びながら、キリシタンについて旅をする過程にわくわくしました。歴史を自分の足で歩くことで深く思いをはせることができ、また現代にもキリシタンの歴史が息づいていることに気づかされました。(50代 女性)

「君の臍臓をたべたい」 住野よる／著

双葉社 2015 年刊 913.6/ス

住野よるさんは、はっきりと「恋」といわない。本当の「恋」とは「こ」「い」の2文字では表せないくらい複雑なのでしょう。主人公は「彼女」と出会ったことで変わることができました。人と関わることは怖いし、大変な分、得るものも大きいのだと思います。ありふれているようで、「生きている」というのは、とても貴重な時間。もっと毎日を大切に、生きたいと思います。(10代 女性)

「たった一言でいい流れを

つくる「あいさつ」の魔法」

三上ナナエ／著

朝日新聞出版 2016 年刊 336.4/ミ

一例ですが。上司から「お疲れ様」よりも、「お疲れ様、表情が引き締まってきたね」と一言。社会人一年生のとき、その言葉にはっとした気持ちになった。「見守ってくれる人がいるんだ。」アイコンタクトの大切さと併せて語りかけてくれる本です。チームをワークさせる声掛け。「見て」、「留めて」、伝える「ありがとう」等々、コミュニケーションが瞬く間に改善。まさに「あいさつ」の魔法です。(50代 不明)

「蜜蜂と遠雷」 恩田陸／著

幻冬舎 2016 年刊 913.6/オ

文章でピアノコンクールを実感させる力が素晴らしい。500 ページ 2 段組があつという間です。(50代 女性)

「「やさしさ」という技術」

ステファン・アインホルン／著 池上明子／訳

飛鳥新社 2015 年刊 159/ア

恥ずかしながら「やさしさ」とは、性格的なものだと思っていたが、著者によると、心から積極的に、また正しい方法でやさしくすることは「技術」なのだそう。人は、よい行いをしたいと願って行動し、相手の考え方を理解する共感力を磨くことで、もっとやさしくなれる。それはほんとうに簡単な、そして、とても難しいことという結びに大いに納得。(女性)

「羊と鋼の森」 宮下奈都／著

文藝春秋 2015 年刊 913.6/ミ

才能あふれる人達のそばで、主人公は、才能なんてなくなつて生きていくんだと静かに強く決意する。その姿を自分と重ねて、応援しないではいられなくなる。仕事への情熱がじわじわと胸に迫ってくる一冊です。(40代 女性)

「ドクター・スリープ」 上・下

スティーヴン・キング／著 白石朗／訳

文藝春秋 2015 年刊 933.7/キ

サイコホラーのシャイニングの続編。ホラーでありながらアルコール依存症や社会的貧困、色々な社会的立場の登場人物の社会的葛藤や価値観も勉強させられました。SF ホラーの要素も楽しめました。前作のシャイニングも含めて一気に読めば、さらに楽しめますよ。(40代 男性)

「一度は歩きたい!日本の町並み」

伝統的町並み研究会／編著

洋泉社 2015 年刊 521.8/イ

日本の美しい町並みが110ヶ所、フルカラーの写真集。訪れたことがない所ばかり、江戸・明治・大正の面影がいまに残っている。一枚一枚、写真をめくり、まるで追体験の感覚。とてもなつかしく、子どもの頃の自分に帰ってそこにいるような気持ちになります。ゆったりと時間が流れていく一時を。(50代 不明)

「英語で作るすし」 成瀬すみれ／著

PHP 研究所 2015 年刊 596.2/ナ

まさにサブタイトル「日本料理でおもてなし」。全ページカラー写真。料理の仕上がりはもちろん作り方まで写真で説明。レパートリーは「基本のすし」、「華やかすし」、「世界のすし」、「手軽なすし」の計64種類。「すし」に関する由来、マナー、道具に器。簡単な英語と日本語を並記。そうだったのかと面白くて、お箸とページを同時に進めたくになります。(50代 不明)

「塩狩峠」 三浦綾子／著

新潮社 1981 年刊 913.6/ミ

有名な小説ですが、30代になってようやく読みました。実話を基にしたストーリーのため、結末は実際の出来事と同じです。しかし、それまでの主人公の生い立ちや心情の変化、そしてキリスト教徒としての隣人愛についての、作者の描写に引き込まれてしまい、長編小説ですが、疲れも忘れて読めました。年代に関係なく、お勧めしたい一冊です。(30代 男性)

「スタンフォードのストレスを力に変える教科書」
ケリー・マクゴニガル／著 神崎朗子／訳

大和書房 2015 年刊 498.3/マ

ストレスのとらえ方を180度変えてくれる。人生観を変える本と言っても過言ではない。(40代 男性)

「天皇陛下の私生活」 米窪明美／著

新潮社 2015 年刊 288.4/シ

昭和天皇の昭和 20 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までを、様々な資料を元に、詳細に描いた本。昭和史研究には必読である。(50 代 男性)

「項羽と劉邦」 上・中・下 司馬遼太郎／著

新潮社 1980 年刊 913.6/シ

圧倒的な指導力で軍をまとめる項羽と、人徳の深さで軍の支持を集める劉邦。性格の全く異なる 2 人の天下を賭けた戦いが本質的な視点で描かれ、とても納得したと同時に大変感動した。(20 代 男性)

「いちご同盟」 三田誠広／著

河出書房新社 1990 年刊 913.6/ミ

青春小説として書かれているが、読者の年代を問わず心に響く作品と思う。文章に清潔感があり、自信をもって勧められるので、特に若い人たちに読んでいただきたい。(50 代 男性)

「お待ちしてます下町和菓子栗丸堂」

似鳥航一／著 KADOKAWA 2014 年刊 913.6/ニ

お菓자에まつわる話が、そのお菓子ごとに 1 話完結となっている。主人公である栗丸堂の菓子職人栗田が様々な”謎”にいどんでいく。さらに、取り巻く人たちにも”謎”があり、読み進めるうちに解き明かされていく。つまり 1 話で 2 つの”謎”が楽しめるようになっているのだ。はたして栗田はどうなるのか、これからの展開が楽しみなシリーズである。

(50 代 女性)

「エミリの小さな包丁」 森沢明夫／著

KADOKAWA 2016 年刊 913.6/エ

都会で傷ついたエミリをあたたく迎えてくれたのは自分を捨てた母の父、おじいちゃんだった。田舎に住んで自分の生活を守っている祖父とその周りの人にいやされていくが、また都会の友人に傷をえぐられてしまう。おじいちゃんのぶれない生活、大きな愛にグッときます。(40 代 女性)

「目の見えない人は世界をどう見ているのか」

伊藤亜紗／著 光文社 2015 年刊 369.2/イ

タイトルを見た時は「目を閉じた世界と何が違うの？」という疑問を持ちつつ読み始めた。しかし、視覚以外の感覚から得られる世界には、別の顔があることを知らされた。美学と現代アートを専門とする著者が、視覚障がい者などに行ったインタビューやワークショップをもとに「世界の別の顔」の姿をまとめた内容。視覚からの情報に依存し過ぎている現代人にお薦めの本です。(60 代 男性)

「キッチン」 吉本ばなな／著

福武書店 1988 年刊 913.6/ヨ

突然訪れる身近な人の死を受け入れる難しさを、人間らしさの中に込められた心の美しさを交えつつ絶妙に描かれていた。人の死はもちろんマイナスなことではあるが、それに直面したときにしか見えてこない大切なものを得られる機会でもあると感じた。家族や恋人など大切な人がいる人は是非一度読んで欲しい一冊である。(20 代 男性)

- 「ツバキ文具店」小川糸 ○「村上海賊の娘」上・下 和田竜 ○「桜風堂ものがたり」村山早紀
○「元気になるシカ」藤河るり ○「和田式要領勉強術数学は暗記だ！」和田秀樹
○「黒魔女さんが通る!!」シリーズ 石崎洋司 ○「七歳の捕虜」光俊明 ○「転生」篠田節子
○「置かれた場所で咲きなさい」渡辺和子 ○「Licca tan」香山リカ ○「武士道」新渡戸稲造
○「『ミス・パイロット』STORY BOOK」市川しんす ○「茶畑のジャヤ」中川なをみ
○「ネコのタクシーアフリカへ行く」南部和也 ○「若おかみは小学生!」シリーズ 令丈ヒロ子
○「すてきなルーちゃん」たかどのほうこ ○「ルラルさんのにわ」いうひろし ○「スタフ」道尾秀介
○「ちいさな人形とちいさな奇蹟」レイチェル・フィールド ○「本物の英語力」鳥飼玖美子
○「私のスポットライト」林真理子 ○「かいけつゾロリ」シリーズ 原ゆたか ○「母」三浦綾子
○「人を動かす」D.カーネギー ○「長流の畔」宮本輝 ○「図説ショパン」伊熊よし子
○「理系に学ぶ。」川村元気 ○「キング・オブ・スタイル」マイケル・ブッシュ ○「刀語」西尾維新
○「沖縄は「不正義」を問う」琉球新報社論説委員会／編著 ○「ヨーコさんの言葉」佐野洋子
○「日の名残り」カズオ・イシグロ ○「指と耳で読む」本間一夫 ○「眩(くらら)」朝井まかて
○「星の王子さま」サン＝テグジュペリ ○「君は誰に殺されたのですか」江花優子
○「ジェノサイド」高野和明 ○「銃とチョコレート」乙一 ○「スモールハウス」高村友也
○「ハッピーバースデー」青木和雄 ○「チベットわが祖国」ダライ・ラマ ○「薄儀」塚瀬進
○「うめ婆行状記」宇江佐真理 ○「関東軍」島田俊彦 ○「戦国大名と天皇」今谷明
○「現代秀歌」永田和宏 ○「壁の男」貫井徳郎 ○「デフレの正体」藻谷浩介 ……ほか

紙面の関係で、お寄せいただいたご感想や書名のすべては掲載できませんでした。
ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

移動図書館 新巡回地点のお知らせ

平成 29 年 4 月 14 日(金)から 榛松第 3 公園 に
移動図書館「あおぞら号」がやってきます！

川口市立図書館の利用カードで貸出しが可能です。

※利用カードをお持ちでない方は、現住所の確認ができるもの(運転免許証、保険証など)をお持ちください。その場で利用カードをおつくりいたします。

●巡回日程: 毎月第 2・第 4 金曜日

●巡回時間: 15 時 30 分～16 時 10 分

※雨天・雪等の場合は巡回が中止となります。

※祝祭日と、毎年 8 月は、巡回がありません。

★巡回予定日★

4 月 14 日(金)

4 月 28 日(金)

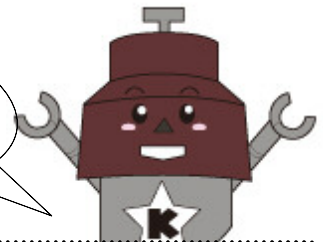
5 月 12 日(金)

5 月 26 日(金) ...

※6 月以降は
お問い合わせください



ぜひ
ご利用ください♪



▲川口市榛松 3 丁目 6 番